

会 議 名	港区障害者福祉避難所における防災活動支援業務委託 第3回事業候補者選考委員会
開催日時	令和7年9月2日（火曜日）午後2時から午後3時30分まで
開催場所	港区役所 9階 研修室
委 員	保健福祉支援部長 新宮 弘章（委員長） 防災危機管理室防災課長 井上 茂（副委員長） 芝地区総合支所協働推進課長 中村 ゆかり（委員） 保健福祉支援部避難行動要支援者対策担当課長 上野 大二郎（委員） 保健福祉支援部障害者福祉課長 宮本 裕介（委員）
事 務 局	保健福祉支援部障害者福祉課障害者支援係
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 A事業者 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 閉会
配付資料	次第 資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点基準表（A事業者分） 資料3 第一次審査・第二次審査集計結果（※採点終了後、机上配付） 資料4 第2回選考委員会会議録 参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書（案）
会議の内容	
委員長	【1 開会】
委員長	【2 第二次審査実施概要について】 （事務局から資料1、2を用いて説明）
全委員	第二次審査実施概要について、質問のある方はいますか。
委員長	<質問等なし>
委員長	それでは、これより、プレゼンテーションとヒアリングに入ります。この後、A事業者のプレゼンテーション及び質疑応答が終了するまで、事務局で進行及び時間管理をお願いします。

事務局	【3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施】 それでは、A事業者に入場していただきます。 <A事業者入室>
事務局	これより、プレゼンテーションを実施します。事業者の方は、説明をお願いします。 ～A事業者のプレゼンテーション～
事務局	ただ今の説明につきまして、選考委員から質問をさせていただきますのでよろしくをお願いします。 ～A事業者の質疑応答～
D委員	2点質問させていただきます。 1点目は、5年間のスケジュールを教えてくださいましたが、初年度は1施設をロールモデルとして実施した後、翌年度以降他の4施設を同時に並行して実施できるものなのか、また、それぞれのフィードバックはどのように考えていますか。 2点目は、施設ごとの特性に合わせたマニュアルの更新について提案資料に記載されていましたが、具体的にどのように想定されていますか。
A事業者	1点目の質問について、初年度に訓練を実施する1つの施設と他の4施設において、大きな流れはあまり変わらないと考えておりますが、入所型施設と通所型施設では変わる部分が非常に大きいと考えています。入所型施設の場合、始めから施設職員が施設にいる状況であること、初動の段階から施設利用者がいて、その利用者が事実上最初の避難者になる部分が大きな特徴であると思います。そのため、入所型施設と通所型施設で流れが異なってくることは間違いないと思います。一方で、開設の流れはあまり大きく変わらないと考えています。発災後、初動の施設対応についてはあまり大きく変わりませんが、避難者の受入れを行うまでの避難所の開設準備については、施設によって階層や利用者が異なることにより変わる部分があります。入所型施設と通所型施設の違いのように、施設特性によって異なる部分はありますが、基本的にやらなければいけない項目は各施設で大きくは変わらないと思っています。したがって、2点目の質問について、2年目以降、全施設を同時並行して取り組んでいくことは、対応可能です。全施設共通で取り組む必要があることを並行して実施することは、むしろやり

	やすい形と思っています。
D委員	提案資料の記載だと、5年目はビデオ制作やポケットマニュアルの作成を行うこととされていますが、訓練は実施されないのでしょうか。
A事業者	5年目については、4年間で取り組んだ訓練やマニュアルの内容を各施設職員に説明する内容が中心になるため、それまでの4年間と同様に訓練を実施することは、現状考えておりません。
D委員	分かりました。私からの質問は以上です。
A委員	2点質問させていただきます。 1点目は、マニュアルの概要版をアクションカード化することを提案の軸に置かれていると思います。アクションカード化することのメリットは当然あると思いますが、想定されるデメリットは何か、また、それを解消する方法について、どのように考えていますか。 2点目は、現行マニュアルの課題として、災害時に初めて班編成されるため、実効性に疑問があると指摘をされており、初動期に各個人への役割の割り振り方を決める必要があると提案をされていますが、災害時に参集できる職員が未確定の状況において、具体的にどのように個人の役割を割り振る方法を考えていますか。
A事業者	1点目の質問について、アクションカード化することのデメリットというより課題になりますが、アクションカードを実際に使った動き方を当然訓練していく必要があるため、施設の職員に分かりやすく示していく必要があることが考えられます。また、アクションカードの保管方法について、職員の手元に置いておくのか、所定の場所に置いておくのかといったことをしっかり検討しておく必要があります。実際に使用する際に、すぐに使えるように保管しておくことは、重要なポイントだと思っています。 2点目の質問について、班編成については福祉避難所だけでなく、一般の避難所にも共通する話になりますが、参集した人たちで対応するしかないことの認識をまずしっかりされるべきであると思っています。その上で、毎年段階別に訓練を実施し、各職員のスキルを上げていきたいと思っています。
A委員	事前に各個人の役割を決めるのではなく、職員に訓練を通じて様々な業務を経験してもらい、発災時に誰が参集したとしても、随時避難所業務に取り組んでいく体制を作っていく必要があるということですか。

A事業者	はい。それを補完するものとしてアクションカードを作っていきたいと思っています。
A委員	分かりました。私からの質問は以上です。
C委員	2点質問させていただきます。 1点目は、本業務を受注するに当たっての人員体制について、提案書に記載されている本業務の従事予定者2名はどちらも他業務を2件担当していますが、本業務の運用に支障が出ないようにするための工夫は考えていますか。 2点目は、提案資料に福祉避難所は一般避難所に比べて避難者がある程度限定されることが特徴という記載がありましたが、マニュアルの作成や訓練に当たって、例えば、知的障害者と精神障害者のように障害種別が混在したときの避難所の考え方や工夫、そして、障害特性ごとの配慮について、どのように考えていますか。
A事業者	1点目の質問について、業務従事予定者の2名の他業務については、それぞれ管理業務が中心のため、本業務とのバランスは比較的取りやすい形になっています。また、本業務を受注させていただくことを前提に、9月以降の業務担当者の手持ち業務について、本業務を支障なく進められるように調整をしております。 2点目の質問について、障害特性ごとの配慮の一つとして、居住スペースの区切り方や使用できるスペースに何人入れるのかを考慮した上で避難者を割り当てていくことが考えられます。また、一番のポイントとして捉えているのが、支援者についてです。現状では、福祉避難所の施設職員を軸に考えていますが、当然ながら家族の方が支援者に入ることも十分考えられるため、付添者の居住スペースの確保についてなどの配慮、工夫が必要であると考えています。
C委員	例えば、精神障害者施設の福祉避難所について、基本的には精神障害者が避難してくることが前提ではありますが、身体障害者や知的障害者も避難してくることが想定される中で、障害種別ごとに居住スペースを分けたり、支援者を家族の方に担ってもらうなどで対応していくイメージでしょうか。
A事業者	基本的な方針としては、障害特性ごとに避難所自体を分けておいたほうが、支援はしやすい状況になると思います。障害特性ごとにケアをする部分が全く異なってくるため、施設の運営上における対象障害種別と一緒にしておくことが基本の考えにはある一方で、異なる障害種別の方が避難してくることも当然想定しておく必要があります。そのための準備、対策を入念に行っていくことがポイントになると思っています。

C 委員	分かりました。私からの質問は以上です。
B 委員	2 点質問させていただきます。 1 点目は、提案資料に本業務を進める上で、災害看護等で実際に被災地での支援にあたった防災アドバイザーや障害当事者アドバイザーにも参画してもらうという記載がありますが、それぞれどのような経験をされている方なのか、また、本業務にどのように携わってもらうのか、教えてください。 2 点目は、現状のマニュアルの課題点として、開所時と閉所時が区別されていないことを課題として挙げられていますが、開所時と閉所時の違いによる課題はどこにあるのか、そして、どこにポイントをおき、マニュアルの作成や職員のスキル向上に取り組んでいくか、教えてください。
A 事業者	1 点目の質問について、防災アドバイザーは、看護師で能登半島地震や西日本豪雨等の際に被災地の避難所で実際に支援にあたった方を想定しています。障害当事者アドバイザーは、自身も障害がある当事者の方になります。携わり方としては、電話やメール等でのやりとりに加え、状況に応じて福祉避難所意見交換会に出席するなど調整していきたいと思っています。 2 点目の質問について、開所時と閉所時の違いについては、一番は施設職員がいるか否かの部分です。特に課題となるのは、職員の参集状況が避難所開設・運営に大きく影響してくることです。閉所時の場合、職員が参集したときに、通常サービスを継続する場合はその対応と避難者の受入れを同時並行して行うことが開所時との違いになります。通常業務の継続や避難所運営については、各施設の B C P も踏まえつつ、取り組んでいきたいと考えています。
B 委員	分かりました。私からの質問は以上です。
E 委員	本業務を受託する場合、困難と感じている部分がありましたら教えてください。
A 事業者	私達は障害のプロではないため、先ほどのご質問にありました、障害特性に応じた配慮等については、各施設やそれぞれの障害に精通した方々に忌憚なくご意見をいただきながら進めていきたいと思っています。また、防災アドバイザーや障害当事者アドバイザーとも連携を図りながら、取り組んでいきたいと思っています。
E 委員	分かりました。私からの質問は以上です。

事務局	そのほかに質問のある方はいますか。 <追加質問なし>
事務局	それでは、質疑応答は以上とさせていただきます。事業者の方は、ご退室ください。 <A事業者退室>
委員長	【4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について】 それでは、第二次審査集計結果について、事務局から説明をお願いします。
事務局	第二次審査集計結果は、500 点満点中 375 点となり、選考の目安である 60%を超えています。 第一次審査 675 点、第二次審査 375 点で、総合得点は 1,500 点満点中 1,045 点となりました。説明は以上です。
委員長	それでは審査に当たり、評価したポイントなど、各委員から順番に講評をお願いします。
D 委員	知識や手法について、必要な水準であると思いました。また、各施設の話をし っかりと聞き取った上で取り組んでいただけたそうで、好印象だったため、理解・ 回答力や取組意欲の項目は高く評価しました。提案の実現性と効果性は標準的 な水準であると感じました。
A 委員	本業務に対する理解が深いと感じ、業務責任者と担当者も経験が十分あり、安 心できる事業者であると思いました。提案書の中で不明だった点も質問しまし たが、しっかり回答いただけたと思っています。一方で、話が冗長で、こちらの 質問に的確に答えられていない場面も見受けられましたが、当該事業者を選考 することになった場合、担当課で事業者としっかり話し込んでいただけるとよ ろしいかと思いました。 5 年目に訓練は実施しないという計画でしたが、事業者が作成するマニュアル に沿って行う訓練となるため、5 年目の訓練も関わってほしいと正直思いまし た。当該事業者を先行することになった場合は、事業計画について綿密に話し合 いをしていただけるとよろしいと思いました。
C 委員	提案書類に加えてプレゼンテーション、質疑応答において理解や工夫が感じら れました。また、施設とのコミュニケーションをしっかりとろうとしている意思

	も感じられました。回答について、一部分かりにくい部分がありましたが、私としては比較的こちらの意図を聞き取ろうとしている意思是感じられたため、業務を進めやすいのではないかと感じました。
B 委員	福祉施設の特性をよく理解している事業者であると感じました。業務実績からも経験値はあると感じられ、現状の課題を理解されていると受け止めました。区として訓練を継続して実施し、定着させていきたい思いを踏まえた提案内容になっていると思いました。現場の施設職員は日々忙しいため、その中で各施設とのヒアリングを通じて業務を進めていくことが大切になりますが、質疑応答の様子でコミュニケーションをスムーズにとれるか心配な部分があったため、担当課から各施設に対して今回委託事業者を入れる趣旨をしっかりと伝えていただければと思います。
E 委員	全体的に必要な水準に達していて、安心できる事業者であると感じました。本業務は各施設とコミュニケーションをとりながら進めていく趣旨が非常に大きいと感じていますが、その点において、当該事業者は各施設としっかりコミュニケーションをとろうとしている姿勢が感じられたため、期待したいと思います。また、現場の施設職員は忙しい中で、福祉避難所業務に取り組んでいただけるかは、担当課からも大切なことであることを伝えて進めていただければと思います。
委員長	各委員からの講評を踏まえ、評価について確認したいところなど、意見のある方はいますか。 <意見等なし>
委員長	それでは、審査結果や各委員の皆様からのご意見から総括し、当委員会としては、A事業者を事業候補者として選考することとしますが、よろしいでしょうか。
全委員	<承認>
委員長	それでは、A事業者を事業候補者として選考いたします。 【5 閉会】 (委員長より閉会の挨拶)